

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100048		
法人名	株式会社 サンメディカル		
事業所名	グループホームサンパーク笑う門 だいち		
所在地	〒020-0863 岩手県盛岡市門1丁目15番25号		
自己評価作成日	平成27年11月25日	評価結果市町村受理日	平成28年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100048-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100048-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年12月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの関わりを大切に感謝の気持ち「ありがとう・嬉しい」を言葉で伝え、ゆったりと笑って過ごせるよう支援している。サンメディカルは福祉用具のレンタル、販売しているので利用者様の生活状態に合わせ福祉用具、衛生用品の試供品を提供している。健康管理として口腔ケア、排便コントロールに力を入れている。食事は目でも楽しめるよう献立や盛り付けを工夫しバランス良く食材を使用している。また、水分摂取量を保つために器の工夫、好みの水分を準備し支援している。町内行事にも参加したり、地域の方を交え避難訓練を行っている。自然に恵まれた閑静な住宅地に立地しており、季節の移り変わりを感じながら散歩を楽しめる。ホームの畑では野菜を育て収穫を楽しみ、一緒に調理をして食べている。利用者様と職員で季節の物を作成しホーム内に装飾している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念は職員で話し合っ決めて、「私たちは、家族、地域と共に高齢者にかかわりよりそい、私らしさを見つめて、みとめてゆったりと笑ってすごせるように支援します。」としている。また、「日常の五心」の「すみませんという「反省の心」、はいという「素直な心」、おかげさまという「謙虚な心」、私が出ますという「奉仕の心」、ありがとうございますという「感謝の心」をケアの心構えとしている。事業開始から10年経過し、職員に「理念」と「日常の五心」が浸透し、日々意識してケアサービスを提供していることが窺われる。職員は、利用者一人ひとりの個性、状態にあわせ、きめ細かな介護を行っている。  
・これまでの外部評価に係る家族アンケートを集計し、家族の思いや願い、要望を分析している。その結果から、家族との関係づくりを課題として取り組み、家族の理解を得られるよう努力している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域、家族を意識した表現の理念にしている。地域行事への参加、近隣での買物をし交流している。	理念は、職員で話し合って作成している。地域を意識し、食材や日用品は、近くの産直やスーパーを利用している。また、職員は、ケア提供時の心構えとして、「日常の五心」を意識し、丁寧で、誠実なケアサービスを実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板、会報を頂き、流しそうめん、資源回収の行事に参加している。花を頂いたり、ホームに居ながら祭りの音頭上げや子供神輿を楽しんでいる。	地区から、回覧板や門の会報が廻ってくる。地区の掃除や世代間交流の流しそうめんに利用者と一緒に参加している。近所の方にバラの花を頂き、バラ風呂を楽しんでいる。地区へのお返しに、文化祭に利用者の作品を提出しようと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパーに利用者様と一緒に出かけたり、運営推進会議に参加していただいて認知症ケアの報告を行っている。入居の問い合わせや相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内、包括、家族の代表に活動、入居状況、健康状態、研修、地域交流の報告をして助言を受けている。外部評価アンケート結果の集計による気づきの助言があり書式を変更した。	推進会議は、グループホーム2ユニット、デイサービス合同で、夜開催している。報告事項に対して、委員から、意見・助言が得られている。議事録は、分かりやすく、丁寧に記述されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	盛岡市や包括支援センターへ運営推進会議録の提出をし、その都度、多様な面での連携を図れるよう取り組んでいる。	市の窓口へ直接、運営推進会議録を持参したり、書類を届けている。介護に関しては、推進会議の委員でもある、地域包括支援センターに相談し、助言を頂いている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑門(だいち)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念にそって夜間の戸締り以外施錠することなくご本人の気持ちを受け入れる支援を実施している。利用者様、職員の位置確認を徹底している。	身体拘束については、年間の研修計画に取り入れている。また、県の身体拘束に関する実態調査の結果を参考にしている。玄関は、夜間施錠している。利用者の位置の確認を徹底し、無断外出には、見守りしながら付き添っている。言葉での拘束に注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し認知症の理解に努め、ご本人を受け入れることを基本としている。ボランティア、実習生を受け入れ外部からや感想を頂き防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	受け入れることから始める基本姿勢や理念にそって支援し、振り返りをしている。研修会に参加し、職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には目的、入院した場合、看取り、入居料金、不安な点を時間をかけてその都度説明をしている。料金の変更があった場合には重要事項説明書にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見当初箱をおいている。面会、サービス計画説明時に家族の要望を確認している。利用者様の変化に伴う対する対応に気配りしている。	家族から、利用料の値上げについて苦言があったが、誠意をもって十分説明し、理解をいただいている。面会時や計画説明時に意見を聞き、ケアに取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のカンファレンス及び連絡ノートを活用してサービス計画、業務、勤務表等に関して意見交換をしている。業務日誌の記入者は何でも自由に記入して会社代表に訴えたり、携帯で話ができるようにしている。	職員は、カンファレンスや連絡ノートを活用してサービス計画、業務、勤務表等に関して、意見交換をしている。業務日誌の記入者は何でも自由に記入して会社代表に訴えたり、携帯で話ができるようにしている。ケアマネジャーの資格を取得し、ケアマネジャーとして働きたいと希望を申し出をし、異動予定の職員もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の役割や責任を持って行えるように、また、認知症ケアの不安を解決出来るように助言している。勤務表の平等を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験年数、研修歴などを参考に計画を立て、希望を聞きながら平等に研修を受けられるようにしている。認知症ケアの不安を解決できるように助言している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	うグループホーム協会、ブロック定例会の研修に交代で参加したり、交換研修を通じて交流、ネットワーク作りをしている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式から情報を得て、ご本人を受け入れる事を一番に考慮し生活リズムの声かけを行い、強制することなく支援している。ご家族様に面会を増やして頂き、共に関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込み、契約、面会時など傾聴することから始めている。ご家族様の都合の良い時間に出向いて頂いたり、電話にて生活の様子をご報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報、見学時の様子でどのような支援が必要か見極めているが、決め付けずに見守りをし、出来る事、出来ない事、不安に思っている事などを職員間で共有し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いを優先にし「一緒に」の声かけを行い、コミュニケーションをとり「ありがとう」と感謝の気持ちお伝えし支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に、ご家族様と一緒に支えたいとご説明し、病院定期受診はご家族様をお願いしている。また、希望に沿った面会、外出、外泊をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の直筆で年賀状の支援をしている。電話でご友人やご親戚とも会話が出来るよう支援している。自室に手紙や写真を飾り、馴染みを大切にしている。	最近、利用者の直筆での年賀状作りを支援している。また、家族の協力を得て、盆、正月、彼岸や祭り等の外出、外泊をしている。隣のホーム(2軒続きの家)には、隣家に遊びに行く感覚で行き、交流している。友人や親戚等の面会時には、一緒に写真を撮り、居室に飾り、会話のきっかけにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る事、興味がある事などに職員と一緒に関わりをもち、常に見守りをし変化に気づき戸惑いのサインに寄り添い良い関係作りを意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した時には、不安がないよう職員がお見舞いに伺っている。ご家族様の問い合わせ等にも可能な限り支援し、ケアマネージャーとも情報を交換している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の今を探り、思いをくみ取れるよう支援にあたり、記録、申し送りで職員間で情報共有している。	職員は、利用者の日々の変化や今の思いを探り、意向をくみ取り、記録や申し送りで、共有している。「あっち行って寝る」がトイレに行きたいという思いをであることを、排泄チェック表で確認し、トイレに誘導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャー及び相談員からの情報と、入居前ご家族様にセンター方式を記入して頂き情報を得ている。様子に変化が見られたときにはご家族様に確認し理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	‘いつもと違う’の気付きをする為に生活リズムシート、センター方式を活用して全体の把握に努めて、日々モニタリングしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の経過をモニタリングし柔軟に対応している。計画、評価については、ご家族様、主治医、地域包括、職員の意見を参考に3か月毎に計画の見直しをしている。	職員一人ひとりが日々の経過を観察し、状態の変化に対応している。計画は3か月毎に見直しをし、連絡ノート、申し送り、朝・昼・夕のミーティングでの記録や意見をまとめ、計画を作成している。計画は本人・家族に説明し、意見と同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活リズムシートのモニタリング情報を職員間でアセスメントし、3か月毎に計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の身体状況に合わせ、当社の福祉用具の提供、介護保険更新手続き、病院受診、往診対応を行っている。また、当社デイサービスと交流し行事を楽しんでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけ公園の東屋で世代間交流を行ったり、買物に出かけている。花見や紅葉などのドライブを楽しんでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑門(だいち)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、ご本人様やご家族様の希望する主治医に受診をお願いしている。その際、ホームでの記録の情報提供を行っている。受診対応した時には、ご家族様へ報告している。	入居前のかかりつけ医を継続している。通院は家族の付き添いを原則としている。受診時には、血圧表や写真等の提供をしている。緊急時には、家族の了解を得て、受診している。かかりつけ医とは、円滑な連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、1週間に一度健康相談をしている。訪問日以外にも電話で相談し助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送時には、必ず付き添い病院関係者に緊急連絡表を用いて情報提供をし、入院した場合には頻回に面会に伺い安心して頂けるよう支援している。相談員との連携にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、医療連携体制及び、看取りに関する指針を説明し同意を得ている。ご本人様には、日々の生活の中で看取りの確認をし、サービス計画書に記載しご家族様と共有している。訪問看護師と連携し主治医に報告をしている。	入居時「医療連携体制及び看取りに関する指針」を説明し、同意して頂いて契約している。これまで、主治医、訪問看護師の指導を得ながら、看取り介護を実施している。重症化や終末期には、看取りに向けてのサービス計画書を作成し、家族と共有している。職員は看取り介護について、学習を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間計画で通報訓練(火災、緊急)AEDの使い方、誤嚥対応、ノロウイルス対応等を確認している。電話の側に緊急連絡表、職員連絡表を置いている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立てて毎月訓練を行っている。年2回デイサービスと合同訓練を行った。消防署の派遣をお願いして指導をうけた。セコムの火災センサーが作動すると地域住民に連絡が行くことになっている。	年間計画を立て、毎月訓練(通報訓練、AEDの使い方等)を実施している。年2回、隣接のデイサービスと合同で訓練しており、消防署の指導を受けている。また、心肺蘇生法とAEDの実技訓練に職員が交替で参加している。夜間想定訓練も実施している。	夜間想定訓練を行っているため、今後は夜間(暗さ)を体験できる訓練の実施を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄ケア、入浴介助時には徹底してご本人様の羞恥心に配慮し、言葉使いに気をつけている。戸口に暖簾をかけて自室の空間を大切にしている。	利用者のことばを、否定、注意せず、(はいという素直な心(日常の五心のひとつ))で受け入れ、ありがとう(感謝の心(五心のひとつ))の言葉かけをしながら、意向を確認し支援している。特に、入浴、排泄については、羞恥心に配慮した言葉遣いに気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話、動作などでの不安、精神状態をくみ取り傾聴し生活全般、排泄、睡眠等から体調を確認し環境を整え自ら発することが出来るよう、ゆったりとした空間作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年間行事、1日の生活リズムの予定はあるが、ご本人様の希望、お天気まかせの生活をしている。起床、食事時間が個々の時間になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し個々の希望に沿った髪型にしている。季節に合った衣類をご自分で選び、更衣が出来るよう整理整頓し、欲しい物の買物支援を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑門(だいち)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、和え方、盛り付け、テーブル拭き等の出来る事、好んで行うことの見極めを行い、役割が持てるよう支援している。	嗜好調査を行い、食べたい物(赤飯、寿司、お好み焼き等)を献立に取り入れている。野菜の皮むき、和え方、盛り付け等、一緒に行っている。食事時間も、ゆっくりの方、時間がずれている方等に、個々のペースに合わせ、支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下、咀嚼状態を観察し、食材の硬さや大きさに注意を払っている。食事量、水分量を確認し摂取量を維持出来るように食品代用、嗜好を考慮し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人様の動きに合わせ、食後3回の口腔ケアを居室やホール洗面台へと声がけをしている。口腔内の観察をし磨き残し、乾燥、義歯の状態に気を付けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間排泄を確認し、習慣を受け入れ見極めをし、トイレに個々の尿取りパット等を配置し支援している。	生活リズムの観察で、排泄パターンを確認し、トイレに誘導している。自分でトイレに行く方も多い。麻痺のある利用者には、トイレトーパーを切って置く等、個々の状態に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や軽運動、食事量、水分量に心がけ予防に取り組んでいる。個別の排泄パターンを把握し、不穏、腹痛や嘔吐等の観察をし訪問看護、主治医に相談しコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の理由に沿った声掛けの対応をする事により、スムーズな入浴に繋がるようにしている。また、バラ風呂や、ゆず風呂を実施し好評を得ることが出来た。	月曜日から土曜日を入浴日(午前)とし、週2回入浴出来ている。入浴しない日は、足浴や清拭をしている。バラ風呂(近所の方から頂いた)やゆず風呂を楽しんでいる。予定にこだわらず、午後に入ったり、シャワーだけと個々の希望に合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室の温度、湿度、寝具の調整、個々の安眠に繋がる明かりの調節をしている。不安や寂しさのサインがある時は、職員が添い寝をしたりする事もある。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑門(だいち)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルし職員全員が確認している。個々の症状や変化を把握し訪問看護、主治医に相談している。特に血圧、便秘、眠剤、誤薬に注意を払い支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様にセンター方式を記入して頂き、個々の得意な事、趣味、出来る事などの確認をし役割が持てるようにしている。レクリエーション、買物、散歩、裁縫、行事などで楽しみ事を提供している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的なホームでの外出、散歩、ドライブ、病院受診の他、ご本人様とご家族様の要望で温泉や自宅への外泊等も出かけられるよう支援している。	天気の良い日は散歩をしている。少しずつ歩けなくなり(20分が5分となるなど)、側の公園に行き東屋で休んで戻って来ることもある。隣のデイサービス、隣のグループホームに出かけ、交流もしている。肴町商店街へ、ソフトクリームを食べに行ったり、本人、家族の要望に応え外泊等の支援も行っている。家族との外出を勧めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで、お小遣いを管理はしているが、個々の力に応じて買物や病院受診時には、見守りや一部介助しながら支払いの支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご親戚やご友人と絵手紙等のやり取りをされたり、直筆で年賀状を書いて頂き投函している。また、ホームの電話を利用し会話を楽しんで頂いている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の歌の歌詞にちぎり絵や折り紙作品を貼付け装飾を楽しんでいる。音楽を流すなど、ゆったりとした空間作りに取り組んでいる。	ホールの壁飾りには、利用者手縫いのフェルトの星や靴下等が貼られている。加湿器が置かれ、適温・適湿が保たれている。静かな音楽が流れている。夏は、植物によるグリーンカーテンで涼しさを演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを楽しめる、会話を楽しめる、新聞、本をゆっくり読める、食事作りが見える位置などに気配りをし、家具や椅子の移動をしている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑門(だいち)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物、思い出の写真、家具などを持参して頂き、ベッドや家具などの配置はご本人様、ご家族様と相談して決めている。好みのカレンダーや壁飾りをしている。	ベッド、クローゼット、洗面ユニット、クーラー、パネルヒーターが備えてある。ダンス、椅子、座卓、位牌、家族の写真等、個々の思いの物を持ち込んでいる。部屋の掃除は、出来るだけ利用者と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動線上手すりをつけている。玄関には靴の履き替えがしやすいように椅子を置いている。トイレの案内を大きく貼っている。		